

発達障害児・者の視覚探索の特徴と生活上での困り感との関連性を解明する研究

発達障害の方の視覚探索の特徴を脳機能計測など多角的にて解明する取り組みを行っております。そして生活上での困り感との関連性を検証し、支援方法を開発することを目指しています。

視覚探索とは？

- 「人ごみの中から知人を見つけ出す」、「教科書で読むべきところを正確に見る」など日常生活の中でたくさん行っている行動です。



発達障害の当事者における視覚探索に関連した問題

- 発達障害の方の中には、視覚探索に関連した問題を経験する場合がありますといわれています。
- 発達障害の中には、自閉スペクトラム症 (ASD) や 注意欠如・多動症 (ADHD)、限局性学習症 (SLD) など様々な症状があり、それぞれでどのような特徴があるのか詳しく分かっていません。
- 視覚探索の特徴を解明し、視覚探索に関連した生活上での問題を解決するためのリハビリテーションを開発することを目的にこの研究を進めています。

視覚探索にまつわる問題を詳しく調べ、その解決を目指します

研究1：視覚探索の特徴を解明する研究

実験：タブレットで課題を行っている時の脳活動を測定

タブレットを使用した課題

課題：たくさんの刺激の中から目的の刺激のみを見つけてチェックをつける

- 正答数や誤答数だけでなく、どのように探していたかなども解析して、詳細に視覚探索の特徴を解明する



fNIRS
(近赤外線で脳血流量変化を測定)

視覚探索を行っている時に、**前頭前皮質の脳活動が高まる**ことを解明

(Yano and Yasumura, 2021; Yano et al., 2022)

- ASD、ADHD、SLDの方々では、どのような脳活動の特徴を示すかを解明する

今後の研究：解明された脳活動の特徴に応じたリハビリテーションの開発へ進めていく予定

研究2：視覚探索に関連した生活上の問題を解明する研究

日常生活において、視覚探索に関連した問題がどのようなものがあるかを調査



【調査で分かった困り感の具体例】

- どこを読んでいたのか忘れてしまうことが多い。
- 高いビルがたくさんある場所で目的の場所を見つけられない。また看板がたくさん並ぶ場所も見つけられない。
- 机の上の筆記用具など、目の前にあることに全く気付かず15分くらい経過することが多い。
- 黒板の板書やスケッチ、レシピの確認が苦手。
- 本屋でも目当ての本を探すのに苦労する。

今後の研究：研究1で解明された視覚探索の特徴との関連性を検証し、支援方法の開発へ進めていく予定

研究に参加していただける方募集中！

←詳しい研究参加の説明と連絡先はこちらのQRコードから
もしくは dds_exp@rehab.go.jpまで！

和田 真 (脳機能系障害研究部・発達障害研究室長)
wada-makoto@rehab.go.jp

矢野 幸治 (脳機能系障害研究部・流動研究員)
Yano-koji@rehab.go.jp

